

本部委員会企画プログラム

国際委員会企画プログラム

6月9日(土) 15:30~18:00 第4会場

国際委員会活動報告

司会：関 隆志（東北大学 CYRIC サイクロトロン 核医学研究部）
小川 恵子（金沢大学附属病院 漢方医学科）

1 世界から見た漢方医学

小川 恵子（金沢大学附属病院 漢方医学科）

2 転換期を迎えた中国の実情

宮内 雄史（東京大学北京代表所）

日韓学術交流シンポジウム

司会：関 隆志（東北大学 CYRIC サイクロトロン 核医学研究部）
Young Chul Kim (Kyung Hee University Korean Medicine Hospital)

1 Evidence and Practice of *Yukgunja-tang* (六君子湯) on Functional Dyspepsia

Jinsung Kim

(Department of Gastroenterology, Kyung Hee University Korean Medicine Hospital)

2 Efficacy and Safety of *Banha-sasim-tang* (半夏瀉心湯) for the treatment of Functional Dyspepsia

Jae-Woo Park

(Department of Gastroenterology, College of Korean Medicine, Kyung Hee University)

3 The Use of Rikkunshito or Hangehashinto, Traditional Herbal Medicines (Kampo), for the Treatment of Epigastric Symptoms

Hiroaki Kusunoki

(Department of General Medicine, Kawasaki Medical School)

4 The Therapy of Traditional Japanese (Kampo) Medicine for Functional Dyspepsia

Makoto Arai

(Department of Kanpo Medicine, Tokai University School of Medicine)

EBM 委員会特別企画

6月9日(土) 13:45~15:05 第4会場

論文執筆の最新情報：漢方を世界に発信するために

座長：村松 慎一（自治医科大学 地域医療学センター 東洋医学部門）

1 漢方処方への引用元としての STORK：英語論文作成のために

元雄 良治（金沢医科大学 腫瘍内科学）

2 論文執筆のガイドラインの世界的動向

ICMJR Recommendations から EQUATOR Network へ

中山 健夫（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野）

EBM 委員会特別企画

1. 漢方処方への引用元としての STORK : 英語論文作成のために

もとお よしはる
元雄 良治

金沢医科大学 腫瘍内科学

日本の医療用漢方エキス製剤を用いたランダム化比較試験 (RCT) などの臨床試験や症例報告を英語論文で投稿する場合、多くの読者は用いた漢方製剤を理解できないため、査読者の要求もあり、用いた漢方製剤を詳細に記載するために多くのスペースが使われてきた。

漢方の英語論文において、用いた漢方製剤を簡潔かつ完全に引用できるように、KCONSORT (Kampo-Consolidated Standards of Reporting Trials) が 2011 年に日本東洋医学会 EBM 委員会内で立ち上げられた。KCONSORT が CONSORT チェックリスト 25 項目のうちの Intervention (介入) の 1 項目しか扱っていないことなどから、改称することとなった。そこで呼びやすい名称を考え、STORK: Standards of Reporting Kampo Products とした。英語で stork はコウノトリを意味し、幸運を運んでくるので、海外に出しても好印象である。

STORK のウェブサイト (<http://mpdb.nibiohn.go.jp/stork/>) では日本で販売されている 148 種類の医療用漢方製剤の情報を英語で提供している。漢方製剤を用いた RCT やその他の臨床研究を論文として報告する際には、STORK の URL を引用すればよい。漢方製剤の添付文書情報の英語版は限られた製薬メーカーでしか作成されていないが、STORK では日本薬局方英語版のエキスの品質規格、日本漢方生薬製剤協会作成の全製品の添付文書情報の英語版が全て掲載されている。

日本の医療用漢方製剤の情報が 1 つのウェブサイトの引用で説明できることは、論文著者にとっては、書き方が統一され、余分な情報を記載する必要がなくなり、紙面の節約にもつながる。海外の読者や査読者にとっては STORK を介して日本の漢方製剤の情報にアクセスできるようになる。

2017 年 5 月に STORK を発表してから (Motoo Y, Hakamatsuka T, Kawahara N, Arai I, Tsutani K. Standards of Reporting Kampo Products (STORK) in research articles. J Integr Med 2017; 15 (3) : 182-5.)、いくつかの論文で STORK が用いられている : 1) Yanase T, et al. Traditional & Kampo Medicine 2017. 2) Takemoto H, et al. Biol. Pharm. Bull, in press.

今後も漢方製剤を使った臨床研究を英語論文で発表する際には、是非 STORK を引用して頂きたい。表記方法についてさらに改良を重ねて、いずれ処方ごとの URL や PDF を作成したい。

略歴

1980 年 東京医科歯科大学医学部医学科 卒業
1984 年 米国テキサス州ダラス・ワドレー分子医学研究所留学
1992 年 金沢大学がん研究所附属病院内科講師
2003 年 金沢大学がん研究所腫瘍内科研究分野助教授
2005 年 金沢医科大学腫瘍内科学主任教授 現在に至る
受賞
2006 年 日本東洋医学会学術奨励賞、
2008 年 武見記念生存科学研究基金武見奨励賞

著書

2007 年 全人的がん医療 (じほう)、
2015 年 腫瘍学 : 知っておきたいがんの知識とケア (じほう)、
2017 年 まるごとわかる! がん (南山堂)

EBM 委員会特別企画

2. 論文執筆のガイドラインの世界的動向：
ICMJE Recommendations から EQUATOR Network へなかやま たけお
中山 健夫

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野

1991年の根拠に基づく医療（EBM）の誕生を契機に、人間（集団）を対象とする科学である疫学とその手法を用いた臨床研究の意義が広く認識されるようになった。相前後して学術情報の質・透明性の向上への意識が高まり、国際医学雑誌編集者会議（International Committee of Medical Journal Editors：ICMJE）、世界医学雑誌編集者協会（World Association of Medical Editors：WAME）の活動も発展した。各種研究の執筆指針は、ランダム化比較試験を対象とする CONSORT 声明（1996年）に始まり、近年、EQUATOR network として、様々な研究デザインを対象に整備が進んでいる。

これらは、著者・共著者、査読者、編集者の協働作業である論文 publication の過程をより良いものとする健全で建設的な学術コミュニケーションのツールであり、その理解と活用には、疫学や臨床研究の知識が基盤となる。国内でも2008年に日本医学雑誌編集者会議（Japanese Association of Medical Journal Editors：JAMJE）が発足し、日本医学会所属の学会を中心に啓発活動を行っている。

本講演ではこれらの現状と展望を概観する。

参考文献：

臨床研究と疫学研究のための国際ルール集（ライフサイエンス出版）Part1・Part2
トムラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド（シナジー）

略歴

1987年	東京医科歯科大学医学部卒業	2016年-現在	同専攻長・医学研究科副研究科長、 日本医学雑誌編集者会議委員
1987-1989年	東京厚生年金病院（現 JACHO 東京メディカルセンター） 内科研修		
1989-1999年	東京医科歯科大学難治疾患研究所疫学部門 助手		
1998-1999年	米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校フェロー		
1999-2000年	国立がんセンター研究所がん情報研究部 室長		
2000-2006年	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻助教授		
2006-現在	同教授（健康情報学）		
2010-2016年	同副専攻長		